

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

January
ISSUE



January, 2026
Volume 163

「きよしこのよる」考

クリスマスおめでとうございます。
そして、新年あけましておめでとうございます。

今回は、クリスマスには欠かせない讃美歌「きよしこのよる」について考えてみたいと思います。

DIAに赴任して9回目のクリスマスを迎える毎年この歌を歌っていますが、今でもこの歌詞になかなか慣れていません。

きよしこの夜 星は光り、
救いのみ子は まぶねの中に
ねむりたもう、やすらかに。
(『こどもさんびか 改訂版(2002)』74番)

キリスト教の幼稚園を卒園した私にとって、「やすらかに」ではなく、「いとやすく」の方がしっくりいくからです。

次いで、2番と3番の歌詞も、

きよしこの夜 みつげうけし
羊かいらは み子のみ前に
ぬかずきぬ かしこみて。

きよしこの夜 み子のえみに、
新しき代の あしたの光
かがやけり、ほがらかに。
(同上)

(旧)「まきびとたちは」→(改訂版)「羊かいらは」「恵みのみ代の」→「新しき代の」と、1997年に発行された『讃美歌21』から歌詞が変更になっています。

原曲はドイツ語ですが、日本語の歌詞を書いたのは牧師であり讃美歌作家の由木康(ゆうき こう)氏(1896~1985)です。彼はこの曲の他多くの讃美歌の訳詞を手掛けており、『こどもさんびか(改訂版)』だけでも4曲ありました。

他にも一般向けに販売されている歌集では、

「まぶねの中に」→「み母の胸に」
「いとやすく(やすらかに)」→「夢やすく」
となっているものもあり、保護者の皆様も「み母の胸に」ではない?という方もおられるかもしれません。

実はこの「み母の胸に」「夢やすく」の歌詞は1927年に同じ柚木康氏によって訳されており、言わば「まぶねの中に」「いとやすく」はその改訂版とも言えます(『讃美歌』(1954)所収)。「み母」とはイエスの母マリアであり、プロテstant教会としてはマリアよりもイエスにスポットを当てる方がよい、という判断だったのでしょうか(「まぶね」は誕生したイエスが眠っていた馬の飼い葉桶を意味します。)。

この曲のように長い間歌われ続けてきた外国語の歌は、その時代に適した多少の訳詞の変更があるようです。

同様に聖書も近年、新しい版が出版されました(「聖書協会共同訳」)。以前の版(「口語訳」や「新共同訳」)よりいっそう自然な日本語で、私のような一般人にも読みやすくなっています。

「きよしこのよる」の他も、歌詞の変更された歌がきっとあるはず。DIAで歌われている讃美歌だけでも、調べてみると面白いかもしれません。

教頭 風間 寛



【左】筆者が幼稚園で使用していた「こどもさんびか」
【右】現在DIAで使用している「こどもさんびか 改訂版」

(JASRAC許諾第J251242697号)



キリスト教教育

1月：信仰・信頼 January : Faith/Trust

「私は、天から降って来た生けるパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。

私が与えるパンは、世を生かすために与える私の肉である。」

(ヨハネによる福音書6章51節 聖書協会共同訳)

年末に NHK の朝ドラ「あんぱん」の総集編を観ました。この物語はお馴染み「アンパンマン」の作者、やなせたかし氏の伴侶である「暢（のぶ）さん」が主人公のモデルになったドラマです。物語では、柳瀬夫妻が戦前戦後という厳しい時代に翻弄されながら、「時代が変わっても、ひっくり返らない正義とは何か。」を追求し続けた結果、生み出されたキャラクターが「アンパンマン」であった、という筋書きになっています。

「アンパンマン」の正義—それは相手が誰であろうと、今自分の横にいる人が飢えていたら、パンを差し出して救う行為のことです。たとえ国や人種が違っても、この正義だけは不滅です。

筆者が初めて絵本「あんぱんまん」に出会ったのは大学生になってからで、偶然駅の書店で見かけたのですが、その素晴らしい内容に一回で虜になってしまいました。初版の「あんぱんまん」は「人の好さそうな、おじさん」として描かれており、決して格好よくも可愛くもありませんでしたが、飢えた人を見つけては進んでその人の所まで飛んで行き、自分の顔を食べさせる姿に深い感動を感じました。

新鮮だったのはそのヒーロー像です。普通、マントで空を飛ぶヒーローは悪者を成敗するのが定番です。ところが初版の「あんぱんまん」はそんなことはせず、ただ飢えた人に「食べ物を配る」だけです。しかも自分自身がひどく傷つくやり方で…。

当初、絵本の内容があまりにもキリスト教的であると感じ、もしかすると「あんぱんまん」はキリストそのものを表しているのではないかと考えたので、この物語の作者がクリスチヤンかどうかを、いろいろな角度から調べてみました。結果、やなせたかし氏自身はキリスト教とは全く関係ない作家であることが判明しました。ところが後になってわかったことは、彼の伴侶である暢さんは、幼少期に洗礼を受けたクリスチヤンであったのです。このことは、世間一般にはあまり知られていません。テレビドラマでは、やなせたかし氏を含む周囲の人々のために、いつも精一杯献身的に生きる「のぶさん」の日常を描き、そこにこそ「あんぱんまん」の原型があることを暗示しています。ドラマでも現実の世界でもある時から彼女は病に侵されて、やなせたかし氏より早くに世を去ってしまいます。それはあたかも自分の顔を食べ尽くされて力尽き、空を飛ぶことを止めた「あんぱんまん」のようでした。

「あんぱんまん」が救えるのは一度に大勢の相手ではなく、一人ずつです。自分の顔を与えては飛び、また与えては飛びしているうちに、顔はすっかり無くなってしまいます。けれども一時パン工場に逃れ、そこで新しい顔を作ってもらったら、再び元気に空を飛んで誰かを助けに行けるのです。だから「あんぱんまん」は不滅です。人間の命には限りがありますが、「あんぱんまんの正義」が存在する限り、このヒーローは決して死なないでしょう。ちょうど、家族や友人への愛が存在する限り、サンタクロースが永遠に生き続けるのと同様に。

「あんぱんまん」が「アンパンマン」となり、見た目も徐々に可愛らしく進化を遂げたことは喜ばしい限りですが、ただ手の形だけは「グー」ではなく、初版本の「パー」のままに置いておいてほしかったと思います。悪人を懲らしめる「グー」よりも、誰かのために食物を配る「パー」の形状こそが、柳瀬夫妻の見つけた正義のヒーローに相応しい手の形だと思うからです。

Christian Education Committee チャップレン 石川眞弓

<参考図書>

- 絵本「あんぱんまん」作・絵 やなせたかし フレーベル館
- 「アンパンマンの遺書」やなせたかし著 岩波新書

<お知らせ>

- 1月の「おにぎり献金」は、1月20日（火）です。
- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」「シリア緊急募金」「ガザ人道危機緊急募金」「ミャンマー地震緊急募金」



★昨年に引き続き、上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持たせください。

学びの包括性

～パッケージされた学びにならないために～

大量に情報が溢れる今、現代人が一日に触れる情報量は江戸時代の一年分、平安時代の一生分とも言われているそうです。あまりに情報が多くて一つ一つの情報について立ち止まって考えることも少なくなっているように感じます。大人も子どもも分からなきがあれば誰でも直ぐにインターネットで調べることができる現代、それらの情報を取捨選択したり正しいこととして整合性をとったりすることが重要となってきます。本校の探究学習を進めるうえでも、様々な情報を元に自分自身でしっかりと考えて独自の意見をアウトプットできる人を育むことを大切にしています。

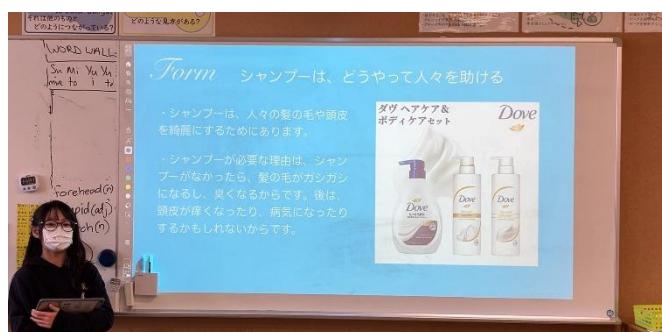
さて、Grade5 の UOI Unit3「Sharing The Planet」では絶滅危惧種や環境問題、Unit4「How We Organize Ourselves」では身近な工業製品に関して探究をしました。サマティブアセスメントで、Unit3 では世界中で問題になっている環境破壊について説明したり、地球に優しい環境に配慮したリサイクル品を実施に作ったりして発表する姿が見られました。その後、Unit4 では身近にある工業製品に目を向け、SDGsの観点も大切にしながら、消費者としての責任を提起する発表が見られました。

ここで私は“学びがパッケージ化され過ぎていないか”と感じました。UOIの「Unit」に限らず、教科的な学習でも「単元」という意識が学びの繋がりを邪魔しているのではないか、ということです。児童たちにとって、学習を単元やUnitで区切ることは脳内整理がしやすいという点で有効です。他方で、学習がズボンと切れ過ぎてしまい、繋がりまで途切れてしまうことがあります。



例えば、Unit3 で海洋汚染について探究して得た知識が、Unit4 で製品を生産する上で工夫されている環境への配慮に繋がりを見出せるかということです。水質汚染と工業廃水は切り離せない問題であることを、Central Idea こそ違えど、多面的に捉え、自身の中でこれまでの学習と結び付けるような動線をたどれるかが大切です。これが包括的に学びを捉えるということです。

ただ、児童のすごいところは、無意識的にこういった学びの繋がりをもっているケースはいくつもありました。「自動販売機」の生産過程で CO₂ 削減の取り組みがあることに触れたり、「シャンプー」を作るうえで工業廃水を地域の水道局と連携する企業努力を紹介したり、視点として児童の中に根付いている感覚がありました。それは大変価値があり、どこまで教師が働きかけるかはいささか判断に迷うところでもあります。わざとらしく結びつけることは、児童に内在する素直な気づきや主体性を邪魔してしまう恐れがあるからです。



Unit5「How We Express Ourselves」では、情報について生活の中にある広告やCMに注目しています。ターゲットは誰か？伝えたいこと・狙いは何か？日常で無意識に見逃していたことに目を向け、児童は何に引っかかるのか。そしてこれまでの学びとどう繋がっていくのか。児童は大変意欲的で前のめりに学習に向かっています。どのような気づきが生まれ、学びが繋がっていくのかわくわくしています。包括的な学びの連動ができるよう見守りたいです。



Grade 6 PYP Exhibition: Final Phase Update

Dear Parents,

Our Grade 6 students are in the final phase of their inquiry project, The PYP Exhibition, scheduled for January 29th and 30th. The current focus is on bringing it all together, communication, and Action. Students are demonstrating six years of learning by packaging their complex inquiry into a clear public presentation.

Key Focus Areas:

The Exhibition is the ultimate test of the Approaches to Learning (ATL) Skills, focusing on how students convey their complex findings:

1. Final Inquiry Structure: Students are polishing their Central Idea and Lines of Inquiry. They are confirming that their core statement is clear and accurately reflects the complex, multi-subject analysis they performed.
2. Conceptual Presentation: They are structuring their presentation around Key Concepts (Causation, Responsibility, etc.) to ensure the audience achieves deep understanding, not just a review of facts.
3. Display Design and Provocation: Students are actively designing their display as a provocation: an engaging element to immediately draw the audience in and encourage interaction.
4. Communication: The ATL focus is on weaving different research ideas into a single narrative. Students are rehearsing to be able to express their complex ideas clearly and refining their delivery skills.
5. Action: Students are finalizing and documenting the meaningful, responsible Action taken in response to their inquiry, which is the defining characteristic of the PYP.

Parent Support

We encourage you to shift your role to think about the following ways to support the students:

- Communication Focus: Ask: "What is the single most important message you want your audience to remember?"
- Logistical Support: Help organize display materials, but do not construct the display for them.
- Well-being: Prioritize balance and help them manage stress during this intensive deadline period.
- Attend: We look forward to celebrating their achievements on January 29th and 30th.

Sincerely,

Chris Elsdon PYP Coordinator

G6 PYP エキシビション：最終段階のご報告

保護者の皆さま

本校の6年生は、1月29日(木)30日(金)に予定されている探究のプロジェクト「PYP エキシビション」の最終段階に入っています。現在の重点は、「まとめ」「コミュニケーション」「アクション」です。児童は発表に向けて6年間の学びを集大成し、複雑な探究内容をわかりやすくまとめ上げています。

★主な学習の焦点

エキシビションは、まさにアプローチ・トゥ・ラーニング(ATL)スキルの総仕上げであり、児童が複雑な学びをどのように伝えるかが問われます。

1. 探究構造の最終調整：
児童は、学びの中心となるセントラルアイデアや探究の柱、学習全体を振り返り、それらが洗練されたものとなっていっているかを、また教科の枠を超えた学びが正確かつ明確に反映されているかを確認しています。
2. 概念的プレゼンテーション：
キーコンセプト(因果関係、責任など)を中心に構成し、事実の羅列ではなく「深い理解」に到達できるよう工夫しています。
3. ディスプレイのデザインとプロポーケーション：
来場者を惹きつけ、対話を促す「プロポーケーション(働きかけ)」となるディスプレイを積極的にデザインしています。
4. コミュニケーション：
調べてきた多様な情報を一つのストーリーとしてつなぎ、複雑な考えを明確に伝えられるよう、発表の練習と表現の質を高めています。
5. アクションのまとめ：
探究を通して行った「意味のある責任あるアクション」を最終的にまとめ、記録に残しています。これはPYPの大きな特徴です。

保護者の皆さまへのお願い

今後は保護者の皆さまには、メンター的なサポートと、必要な範囲での実務的な協力をお願いいたします。

- コミュニケーションのサポート：
「来場者に一番伝えたいメッセージは何?」と問い合わせ、考えを整理する手助けをしてください。
- 実務面のサポート：
ディスプレイの準備・整理にご協力ください。ただし、作品そのものを保護者が制作することはご遠慮ください。
- 健康面のサポート：
締め切りが集中する時期です。バランスの取れた生活ができるよう見守るとともに健康管理をサポートしてください。
- ご来校について：
1月29日(木)30日(金)の本番で、児童の努力と成果をぜひご覧ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

クリス・エルスドン
PYP コーディネーター

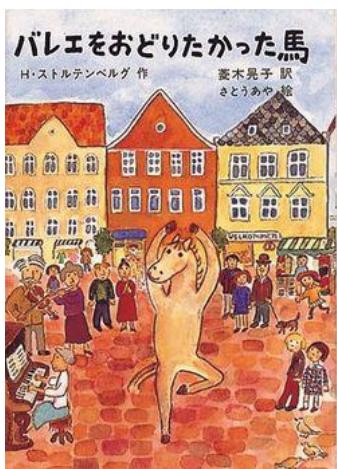


新しい年 2026年

新年あけましておめでとうございます。今年もみなさまにとって幸多き年になりますように祈念しております。2026年の干支は「午」(うま)です。馬が登場する本は DIA Library にもたくさんあります。情熱的でパワーのある馬、どっしり構えた馬、踊りの好きな馬など、みなさんはどんな馬に会いたいですか?図書館でお待ちしています。

*お話の紹介文は出版者の HP から抜粋しています。

『バレエをおどりたかった馬』作: H. ストルテンベング
訳: 菱木 晃子 出版社:福音館書店



田舎で何不自由なく暮らしていた馬が、ある日突然、バレエの美しさにとりつかれ、町のバレエ学校へ入学します。慣れない町の生活。厳しいレッスン。でも、とうとう、心優しい大家さんをはじめとする人々の善意に支えられ、みごと優秀な成績で卒業です。しかし……。バレエを踊りたいという、ちょっとヘンな馬をめぐって、人と動物の善意と友情を描いた、ほのぼのと、心温まる愉快なお話。1996年にノルウェーで出版された作品です。

<https://www.fukuinkan.co.jp/book?id=655>

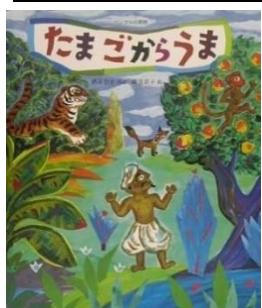
『名馬キャリコ』作・絵:バージニア・リー・バートン
訳:せた ていじ 出版社:岩波書店



名馬のキャリコは、仲よしのカウボーイの少年ハンクといっしょに、牛をぬすんだ5人組の悪漢どもを相手に大活躍。追いつ迫われつの大活劇がスピード一気に展開する、コマ・マンガふうの楽しい絵本です。本のサイズも横長なので読みきかせにもぴったりです。

<https://www.iwanami.co.jp/book/b254938.html>

『たまごからうま』酒井 公子 (著), 織茂 恵子 (イラスト) 出版者:偕成社



馬の卵(じつかばぢや)を買った男が、卵からかえった動物をつかまえようと追いかけ続ける。インドのベンガル地方の愉快な民話。

<https://www.kaiseisha.co.jp/books/9784039637901>

1月の主な行事・予定

1月28日～1月30日 G6 Exhibition

1	木	元旦
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	始業礼拝 Unit 5(Week 5) PYP プラン(午前授業)
8	木	
9	金	G4 保護者推薦進学説明会
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	新 G1 オリエンテーション Buffer Week
14	水	
15	木	
16	金	避難訓練及び G1・G3・G5 引き渡し訓練
17	土	
18	日	
19	月	Unit 6 (Week 1)
20	火	
21	水	クラブ活動
22	木	創立者永眠記念礼拝
23	金	校祖永眠の日
24	土	
25	日	
26	月	Unit 6 (Week 2)
27	火	
28	水	G6 Exhibition(午前授業)(校内向け)
29	木	G6 Exhibition(午前授業)
30	金	G6 Exhibition(通常授業)
31	土	